

## 2011年3月期 第1四半期決算 アナリスト向け電話会議質疑応答

平成22年7月30日  
富士重工業株式会社

**Q：第1四半期営業利益実績226億円と、第2四半期営業利益計画124億円について、段差が生じている要因を説明して欲しい。**

A：上期営業利益計画を修正して350億円としましたので、上期計画から第1四半期実績226億円を引くと、第2四半期の営業利益は124億円となり、第1四半期実績から約100億円減少する計算になります。約100億円のマイナスの内訳は、為替関係でマイナス20億円、原材料の値上げ影響でマイナス30億円、試験研究費関係でマイナス30億円、販売管理費でマイナス20億円。これらが1Qと2Qの段差になりますが、段差が発生しないように一生懸命取り組んでおります。

**Q：通期の見通しについて教えて欲しい。**

A：第1四半期の実績は想定以上でした。この流れを続けていきたいと思っておりますが、当社に限らず、為替、エコカー補助金終了後の国内市場、原材料価格等、先行きが不透明なことを勘案し、今回、通期の業績予想を据え置きました。

**Q：航空宇宙事業の動きについて、今後の見通しを教えて欲しい。**

A：第1四半期では一つ特殊要因があり、前年度防衛省向けの無人機研究システムという研究開発の委託がありました。それが今期は無く、売上と利益が減少しています。本業のビジネスでは、ボーイング787が立ち上がってきますので、プラスが出てきますが、もたついている感じはあるので、スピードは遅くなるかもしれません。

**Q：台数計画は変えていないようだが、期初の見通しに対して、通期の販売台数は、地域別にどのような方向性にあるのか。また、それにあわせて、国内の生産、北米の生産はどのような方向にあるのか。**

A：台数計画は変更していません。トレンドとしては、米国、カナダは期初の計画に対して強含んでいます。日本のマーケットは下期の動向が不透明で、苦戦すると考えています。それ以外の市場は、ほぼ計画通りに進んでいます。生産については、北米販売が強含んでおり、これは特にレガシィ/アウトバックが中心になるので、SIAが相当フル操業になります。低レベルでの投資を行い、生産能力を年間14万～15万台位に上げていますが、この上限に近いところで、今年度の生産は続くと考えています。一方、矢島工場の生産能力は年間40万台で、これについてもほぼ40万台に近いフル操業が今年度は続くと考えています。

以上